



学習会 竹谷志保子先生をお迎えして



「子供の発達についてのあなたの疑問にお答えします！！」 開催報告

知的・発達に遅れや凸凹のある子どもたちの支援に長年、取り組まれてきた竹谷先生をお迎えして学習会を開催しました。

先月、皆さんから竹谷先生へお聞きしたい困りごとや疑問を募集して、多くの方にアンケートを回答していただきました。ありがとうございました。それをもとに先生にお話していただき、豊富な経験と知識に基づいた助言をいただきました。今の困りごとや疑問などを解決する、親と子の関係、心構え、方法等が学習できました。ひとつひとつの質問に丁寧に説明していただきました。

これからの子育ての中で活かしていければと思いました。ありがとうございました。

【講師紹介】

児童発達支援センター うめだ・あけぼの学園
発達支援部補佐役
竹谷 志保子 (臨床発達心理士)



学齢部 E.S 報告

ご参考にしていただければと思いますので、簡単にですが、竹谷志保子先生がお話して下さった内容から抜粋して、以下に記述します。

まず、**子供自身が自分の弱さを愛しむことも含めて「自己肯定感」を育てる**ように、親は「愛情と信頼」を与えて、子供が自分を「理解」し、自分の将来に「希望」を持ち、子供の心の発達のために「活動と表現」が出来るようになることが必要であるそうです。心の発達は、心が育つと、**自立と自律を育み、自尊感情と他尊感情を育み、そして社会性が育まれる**とのこと。対応方法は様々で難しいことではありますが、障害の重い子どもでも大切なこと（「こんな自分でいいんだ」と思えることなど）は同じであるということでした。

皆様からの質問からひとつ、以下に挙げておきます。

【質問】 ゲームの勝ち負けにこだわり、白黒思考。また、完璧主義で少しでも失敗するとパニック。グレーでもよいという思考にするにはどうしたらよいですか？

【アドバイス】 発達特性（シングルフォーカス※、イメージの弱さ、他者の意図や文脈理解の弱さ）であり、1か0だと思っている。負け、失敗の後、どうなるかがイメージできないための不安もあり、失敗した後の立ち直りを評価される経験は、成功して評価される経験より、はるかに少ない。なので、ゲームや日常の些細なエピソードの中での、苛立つ感情を抑える「練習」が大切。グレー思考ができないことがいけないのではなく、その時の感情表現を変えていくことが大切。さらに、ネガティブ感情とその身体感覚を自覚し、受け止め、適切に表現していくプロセスが大切。このプロセスと一緒に受け止め、共有し、認めていくのが私たち大人の役割とのこと。行動は修正しても、感情は否定しないこと（感情は自然に湧いてくるものであり、誰にも止められない）。

※「シングルフォーカス」

複数のことを同時に処理することが苦手で、物事の全体像でなく、小さな細かい部分に強い注意が向けられる。